

FC町田ゼルビア (J2) が ホーム最終戦で管清工業マッチデーを開催

非開削技術編集室



▲ サポーターに下水道をPRする管清工業ブース



▲ キックオフセレモニーで見事なインサイドキックを披露する長谷川代表取締役

J2リーグのFC町田ゼルビア（ホームタウン：東京都町田市）は2021明治安田生命J2リーグ第41節（11月28日（日）14：00キックオフ、町田GIONスタジアム

（町田市立陸上競技場、野津田公園内）、対大宮アルディージャ戦）のホーム最終戦を「管清工業マッチデー」として開催した。

マッチデーとは、Jリーグ公式戦のクラブ主催試合（ホームゲーム）のひとつを社名やブランド名の冠を付け開催するもので、クラブのトップパートナーだけがその開催権利を有するもの。

管清工業(株)は2020シーズンまで同クラブのオフィシャルクラブパートナーとしてスポンサー契約をしていた。2021シーズンからトップパートナーとなり、さらにユニフォームのショーツにロゴマークを掲出するなどさらなる支援強化を図っている。2022シーズンもトップパートナーを継続することが決まっている。

試合前のゼルビーランドと呼ばれるスタジアム前広場には、スタジアムグルメのキッチンカーや同クラブのオフィシャルグッズショップ、キックスピードガンコンテストなどのブースとともに管清工業(株)ブースが設置された。

管清工業(株)ブースでは担当の方がブースに立寄ったサポーターに下水道に関するクイズを出題



▲ 来場者全員に配られたロゴマーク入りタオルマフラー

し、正解者に特製のトイレストラップがプレゼントされ下水道の大切さや認知度向上を目指しPRしていた。さらにスタジアム入場者全員には、同社のロゴマーク入りのタオルマフラーが配られ、首にかけて試合観戦するサポーターの姿もあった。試合前のスタジアム内では、大型ビジョンに「管清工業マッチデー」の表示や同社のCMが流されて、高揚する両チームサポーターをさらに盛り上げていた。

キックオフセレモニーでは、背番号8のFC町田ゼルビアユニフォームを着た長谷川健司代表取締役が登場し、下水道の役割とその維持管理の大切さ、マッチデー開催への感謝のことばを述べられた。その後、審判団とともに両チームの選手が入場しピッチ中央に整列したところに、長谷川代表取締役が見事なインサイドキックで試合の主審を務める御厨貴文さんにボールが渡され会場から大きな拍手が送られた。

同クラブは本節を0-0で引き分け、最終節で勝利しリーグ戦5位で2021シーズンを終了し2022シーズンもJ2リーグを闘うことが確定した。